

# AI が読み解く激突の舞台！トランプ VS ハリス討論会

～勝者は誰だ？政策を訴求し有権者の心を掴む戦略を AI が徹底解剖～

ライフデザイン研究部 主席研究員/テクノロジーリサーチャー 柏村 祐

## 1.注目されるトランプ氏VSハリス氏の討論会

2024年11月の米国大統領選挙に向けて、2024年9月10日に行われたトランプ前大統領とハリス副大統領の討論会が大きな注目を集めた。この討論会は、両候補が直接対決する重要な機会であり、有権者の判断に大きな影響を与える。討論会は、ペンシルベニア州フィラデルフィアで開催され、主要なテレビネットワークと主要なオンラインプラットフォームで生中継された。

政治家の発言や振る舞いを分析することは、その人物の資質や政策、リーダーシップスタイルを理解するうえで重要である。近年、AI技術の進歩により、こうした政治討論の分析に新たな可能性が開かれている。AIによる詳細な分析は、候補者の人格、能力、そしてリーダーシップの質に関する多面的な評価を提供し、単なる政策比較を超えた視点を提示することができる。

本稿では、自然言語処理や感情分析などのAI技術を用いて、トランプ氏とハリス氏の討論会を多角的に分析し、両候補の特徴や討論の勝敗、有権者への訴求力について考察する。特に、経済政策、外交政策、労働政策、環境政策といった主要な分野における両候補の主張の違いに着目し、それぞれの政策がどの層の有権者にアピールする可能性があるかを詳細に分析する。

さらに、共和党支持層、民主党支持層、無党派層・中間層、若年層、女性といった様々な有権者層に対して、両候補のメッセージがどのように受け止められたかを考察し、選挙戦略の観点からその効果を検討する。この討論会は2024年の選挙戦の初期段階で行われたため、その分析結果は今後の選挙キャンペーンの方向性を占う上で特に重要な意味をもつ。

これらの分析を通じて、2024年の大統領選挙の行方を占う重要な洞察を得ることを目指す。また、この討論会が選挙戦全体にどのような影響を与えるか、そして両候補がこの結果を受けてどのように戦略を調整していくかについても注目していく。

## 2.AIによるトランプ氏VSハリス氏動画の分析結果

本節ではAIを用いてトランプ氏とハリス氏の討論会動画を分析した衝撃的な結果を報告する。分析は以下の3つの視点から行った。討論の勝敗、政策比較、有権者への訴求力である。これらの視点を通じて、両候補の対照的な姿勢と戦略が鮮明に浮かび上がった。

まず、討論の勝敗についてのAIの分析結果は、予想以上に明確な差を示した（図表1）。ハリス氏が80点、トランプ氏が55点と、AIはハリス氏が圧倒的優位という評価を下した。

この背景には、両候補の対照的な討論スタイルがある。AIによると、ハリス氏は落ち着きと自信に満ちた態度で議論に臨み、具体的な政策や数字を交えて論理的な主張を展開した。さらに、個人的な経験を巧みに織り交ぜ、聴衆の共感を誘う語り口は特に効果的だった。

一方、AIによると、トランプ氏の討論は攻撃的な言動が目立ち、具体的な政策論よりも相手への個人攻撃や感情的な発言に終始する場面が多く見られた。特筆すべきは、トランプ氏の発言に事実と異なる内容や根拠の薄い主張が散見され、これが信頼性を大きく損なう結果となった点である。

図表 1 AIによるハリス氏 VS トランプ氏の討論会分析結果

ハリス氏 vs トランプ氏 討論会分析	
<b>1. 経済政策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハリス氏: 中間層への減税、子育て支援、クリーンエネルギー投資など具体的な政策を提示し、経済格差の是正や持続可能な成長を訴求。数字を用いた説明も見られ、比較的論理的な主張を展開した。</li> <li>トランプ氏: 過去の経済実績を強調し、現政権の失政を批判。具体的な政策は乏しく、抽象的な表現が目立った。経済指標の解釈にも疑問が残る部分があり、説得力に欠ける印象。</li> </ul>
<b>2. 移民問題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハリス氏: 人道的な観点から移民問題の解決を訴え、移民労働者の貢献を強調。トランプ政権時代の移民政策を厳しく批判し、より包括的な移民制度の必要性を訴求。共感を呼ぶ語り口も効果的だった。</li> <li>トランプ氏: 犯罪の増加と結びつけ、移民に対する厳しい姿勢を強調。具体的な政策や数値の裏付けは乏しく、感情的な発言が目立った。一部差別的な表現も含まれており、不快感を覚える視聴者もいた可能性がある。</li> </ul>
<b>3. 中絶問題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハリス氏: 女性の選択権を明確に支持し、中絶の権利を擁護する立場を表明。トランプ政権下で後退した女性の権利回復を訴求。自身の経験も交え、個人的な共感を誘う語り口が印象的だった。</li> <li>トランプ氏: 中絶反対の立場を表明し、中絶問題を州に委ねるべきと主張。具体的な根拠や政策は示さず、抽象的な発言が目立った。</li> </ul>
<b>4. 外交政策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハリス氏: 現政権の外交政策を概ね支持し、国際協調と同盟国との連携を重視する姿勢を示した。ウクライナ支援の継続、中国への牽制、中東和平への取り組みなど、具体的な外交課題にも言及。</li> <li>トランプ氏: 過去の外交実績を誇示し、現政権の外交政策を「弱腰」と批判。具体的な外交政策は乏しく、個人的な関係性に頼った外交姿勢が目立った。国際情勢の複雑化に対する理解不足も露呈。</li> </ul>
<b>5. 全体的な印象</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハリス氏: 落ち着いた様子で自信に満ちた態度で議論に臨み、具体的な政策や数字を交えて論理的な主張を展開。時折、個人的な経験を交えながら共感を呼ぶ語り口も効果的だった。全体的に冷静で知的な印象を与えた。</li> <li>トランプ氏: 攻撃的な言動が目立ち、具体的な政策論よりも相手への個人攻撃や感情的な発言に終始する場面も多かった。事実と異なる発言や根拠の薄い主張も散見され、信頼性に欠ける印象を与えた。</li> </ul>
<b>点数</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハリス氏: 80点</li> <li>トランプ氏: 55点</li> </ul>
<b>結論</b>	<p>今回の討論会では、ハリス氏が具体的な政策と論理的な主張で優位に立ったと言えるでしょう。冷静沈着な態度も好印象を与えました。一方、トランプ氏は過去の功績を強調する一方で具体的な政策論を避け、感情的な発言が目立ったため、説得力に欠け、前回の大統領選敗北の反省が見られませんでした。</p>

資料: Google AI Studio より筆者作成

次に、政策比較について、AIは両候補の主張の違いを鮮明に浮き彫りにした（図表2）。経済政策では、トランプ氏が富裕層や企業への減税、規制緩和を主張したのに対し、ハリス氏は中間層・労働者階級への減税、子育て支援、クリーンエネルギー投

資を強調した。

外交政策では、トランプ氏が「アメリカ第一主義」に基づく強硬で単独行動的な姿勢を示したのに対し、ハリス氏は国際協調と同盟国との連携を重視する伝統的な外交路線を支持した。特にウクライナ問題に関して、トランプ氏が即時停戦と交渉による解決を主張したのに対し、ハリス氏はウクライナ支援の継続とロシアへの圧力強化を訴えた。

労働政策では、トランプ氏が労働組合の弱体化を容認し雇用創出を最優先課題とする一方、ハリス氏は労働組合の強化と労働者保護、最低賃金の引き上げを主張した。

環境政策については、両候補の立場の違いが最も顕著であった。トランプ氏が気候変動問題を軽視し、環境規制の緩和と化石燃料産業の保護を主張したのに対し、ハリス氏は気候変動対策を最優先課題とし、再生可能エネルギーへの大規模投資と環境規制の強化を訴えた。

図表 2 AIによるトランプ氏とハリス氏の政策の詳細比較

1. 経済政策:		
政策分野	トランプ氏	ハリス氏
税制	減税 (特に富裕層、企業)	中間層・労働者階級への減税
貿易	保護主義 (関税強化)	自由貿易 (ただし、労働者保護の観点からの見直しも)
規制	規制緩和 (企業活動の促進)	必要な規制は維持 (環境、消費者保護など)
エネルギー	化石燃料重視 (特に石油、天然ガス)	クリーンエネルギーへの転換 (再生可能エネルギー)
インフレーション	現政権の責任を主張	世界的な問題と認識、対策を強化
2. 外交政策:		
政策分野	トランプ氏	ハリス氏
ウクライナ	即時停戦、交渉による解決を主張	ウクライナ支援継続、ロシアへの圧力強化
中国	強硬姿勢、貿易戦争	経済的連携と安全保障上の牽制を両立
中東	イスラエル支持、和平交渉への関与は限定的	イスラエルとパレスチナの双方との対話
NATO	加盟国への負担増要求、同盟の弱体化を招く	NATOの重要性を強調、同盟国との連携強化
3. 労働政策:		
政策分野	トランプ氏	ハリス氏
労働組合	労働組合の弱体化	労働組合の強化、労働者の権利保護
最低賃金	最低賃金引き上げに反対	最低賃金引き上げ (15ドル)
雇用	過去の雇用創出実績を強調	新規雇用創出 (クリーンエネルギー分野など)
移民労働者	移民労働者による雇用機会の喪失を主張	移民労働者の貢献を認め、包括的な移民制度改革
4. 環境政策:		
政策分野	トランプ氏	ハリス氏
気候変動	重要視せず、温暖化対策に消極的	気候変動対策を最優先課題として積極的な投資
環境規制	環境規制緩和 (経済活動を優先)	環境規制強化 (再生可能エネルギー、排出規制)
環境保護	重要視せず	環境保護の重要性を強調
<b>総括:</b>		
トランプ氏とハリス氏の政策には、大きな違いが見られます。		
<ul style="list-style-type: none"> <li><b>経済政策:</b> トランプ氏は従来の共和党路線である、減税と規制緩和による経済成長を主張。ハリス氏は民主党の伝統的な政策に加え、環境問題を経済政策に組み込み、持続可能な成長を重視しています。</li> <li><b>外交政策:</b> トランプ氏は「アメリカ第一主義」に基づいた、強硬で単独行動的な外交姿勢。ハリス氏は国際協調と同盟国との連携を重視する、より伝統的な外交路線を支持しています。</li> <li><b>労働政策:</b> トランプ氏は労働組合の弱体化を容認し、雇用創出を最優先課題とする姿勢。ハリス氏は労働組合の強化と労働者保護、そして環境問題と連動した新規雇用創出を重視しています。</li> <li><b>環境政策:</b> トランプ氏は気候変動問題を軽視し、環境規制の緩和を主張。ハリス氏は気候変動対策を最優先課題とし、再生可能エネルギーへの投資や環境規制の強化を訴求しています。</li> </ul>		

資料: Google AI Studio より筆者作成

最後に、有権者への訴求力についてのAIによる分析は、両候補の戦略の違いと、それぞれが狙う層を明確に示した（図表3）。トランプ氏の主張は、熱心な共和党支持者には引き続き魅力的に映る一方で、穏健派や無党派層へのアピールにはつながりにくいことが示唆された。特に、移民問題や中絶問題に関する強硬な姿勢は、保守層には支持されるものの、若年層や女性層からの反発を招く可能性が高いと分析された。

一方、ハリス氏の主張は、民主党支持層を固めつつ、無党派層や中間層にも訴求力があると評価された。特に、具体的な中間層向けの経済政策や社会福祉政策は、幅広い層の支持を集める可能性があるというAI分析。若年層に対しては、ハリス氏の多様性と包容性を重視する姿勢、環境問題への積極的な取り組みが強くアピールすると予測された。さらに、女性層に関しては、ハリス氏の中絶の権利擁護や女性の権利に関する力強い主張が、大きな支持を集める可能性が高いと分析された。

図表3 AIによる有権者へのアピールポイント分析

<p><b>1. 共和党支持層:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トランプ氏: 熱心な共和党支持者にとっては、お馴染みの「アメリカ第一主義」や強硬な移民政策、伝統的な価値観への回帰といった主張は引き続き魅力的だった可能性が高い。しかし、具体的な政策提示が乏しく、攻撃的な言動が目立った点は、穏健派や無党派層へのアピールには繋がらなかった可能性がある。</li> <li>ハリス氏: 共和党支持層に対しては、ハリス氏の主張は総じて受け入れられにくいと考えられる。特に、環境問題への積極的な取り組みや中絶の権利擁護、多様性と包容性を重視する姿勢は、共和党の伝統的な価値観と対立する部分が多い。</li> </ul> <p><b>2. 民主党支持層:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トランプ氏: 民主党支持層にとって、トランプ氏の主張は、ほとんどの点で受け入れられないものだったと考えられる。経済政策、外交政策、社会政策のいずれにおいても、民主党の価値観と大きく乖離している。</li> <li>ハリス氏: 民主党支持層にとっては、ハリス氏の主張は概ね好意的に受け止められた可能性が高い。経済格差の是正、環境問題への対策、女性の権利擁護など、民主党が重視する政策を具体的に提示した点は、支持基盤を固める効果があったと考えられる。</li> </ul> <p><b>3. 無党派層・中間層:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トランプ氏: 現状への不満や閉塞感を抱える無党派層の一部には、トランプ氏の過激な言動や現状打破を訴えるメッセージが響いた可能性もある。しかし、具体的な政策提示の欠如や感情的な言動が目立った点は、不安感や不信感を抱かせる可能性もある。</li> <li>ハリス氏: 無党派層や中間層にとっては、ハリス氏の具体的な政策提案や論理的な説明、そして冷静な態度は、信頼感を与える要素になったと考えられる。特に、中間層向けの経済政策や社会福祉政策は、幅広い層の支持を集める可能性がある。</li> </ul> <p><b>4. 若年層:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トランプ氏: 排他的な言動や古い価値観を象徴する存在として、若年層からの支持は低いと考えられる。特に、環境問題や社会正義への意識が高い若年層にとっては、トランプ氏の主張は時代遅れに映るだろう。</li> <li>ハリス氏: 若年層にとっては、ハリス氏の多様性と包容性を重視する姿勢、環境問題への積極的な取り組み、そして社会正義の実現を目指す姿勢は、魅力的に映った可能性が高い。若年層の投票率向上に貢献する可能性もある。</li> </ul> <p><b>5. 女性:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トランプ氏: 中絶問題に関する保守的な立場や過去の発言、女性蔑視的な言動から、女性からの支持は低いと考えられる。特に、中絶の権利を重視する女性や性的マイノリティの権利を支持する女性にとっては、トランプ氏は受け入れがたい候補者だろう。</li> <li>ハリス氏: 女性の権利や性的マイノリティの権利を明確に擁護するハリス氏の姿勢は、多くの女性に強くアピールしたと考えられる。中絶問題に関する議論において、自身の経験を交えながら力強く主張した点は、共感を得られた可能性が高い。</li> </ul> <p><b>洞察</b></p> <p>今回の討論会は、両候補者にとって、それぞれの支持基盤を固めるための重要な機会となりました。トランプ氏は、自身の熱心な支持層に向けたメッセージを強調することで、彼らの熱狂を高めることに成功したかもしれませんが、</p> <p>一方、ハリス氏は、無党派層や中間層、そして若年層や女性など、より幅広い層にアピールする戦略をとったと言えるでしょう。</p> <p>最終的にどちらの候補者が勝利するかは、これらの層の投票行動が鍵を握ることになります。特に、接戦州における無党派層や中間層の動向が、選挙結果を左右する可能性があります。</p>
---

資料: Google AI Studio より筆者作成

これらの分析結果は、2024年の大統領選挙の行方を占う上で重要な示唆を与えている。トランプ氏が自身の熱心な支持層を固めることに成功する一方で、ハリス氏はより幅広い層にアピールする戦略を取っていることが明らかになった。特に注目すべきは、無党派層や中間層、若年層、女性層の動向である。これらの層の投票行動が、接戦州の結果を左右し、ひいては選挙全体の帰趨を決定する可能性が高いことをAIは示唆している。両候補の討論パフォーマンスと政策主張の違いが、これらの重要な有

権者層にどのような影響を与えるか、今後の展開が注目される。

### 3.AIが示唆する 2024 年米大統領選の行方と政治の未来

AIによる討論会分析の最大の利点は、その客観性と多角的な視点にある（図表4）。人間の専門家による分析と比較して、AIは個人的なバイアスや先入観にとらわれることなく、膨大なデータを短時間で処理し、特に言語使用のパターン、非言語コミュニケーションなどを、人間には捉えきれないレベルで精緻に分析できる点が優れている。ただし、AIによる分析は、人間の専門家による解釈と組み合わせることで、より深い洞察を得られる可能性がある。

図表 4 AIによる政治分析の利点と課題

利点 ↑	課題 ↓
<ul style="list-style-type: none"> <li>客観性と多角的な視点</li> <li>膨大なデータの高速処理</li> <li>統計的に有意な傾向の抽出</li> <li>言語パターンの精緻な分析</li> <li>非言語コミュニケーションの解析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の専門家による解釈の必要性</li> <li>AIの判断基準の透明性確保</li> <li>分析結果の慎重な解釈</li> <li>倫理的配慮の重要性</li> <li>技術と民主主義のバランス</li> </ul>
AIと人間の専門家の協働により、より深い政治プロセスの理解と民主主義の質の向上が期待される	

資料:筆者作成

トランプ氏とハリス氏の討論会分析から浮かび上がるのは、「分断と統合」という現代民主主義が直面する根本的なジレンマである。トランプ氏の戦略が既存の支持基盤強化と分断の深化につながる可能性がある一方、ハリス氏のアプローチは社会統合を図ろうとするものだ。この対比は、多様化する社会において国民の統合を図りつつ個々の利益を代表するという、現代政治の課題を象徴している。両候補の政策比較からは、グローバル化と国内政策の密接な関連性が明らかになった。経済、外交、環境のいずれの政策においても、国内外の問題が複雑に絡み合っている。このような状況下で、政治家には国内外の複雑な相互作用を理解し、統合的なビジョンを提示する能力が求められている。

AIの分析結果は、こうした能力の差が選挙結果を左右する可能性を示唆している。有権者への訴求力分析からは、政治コミュニケーションの変容が読み取れる。SNSの普及やデータ分析技術の発展により、きめ細かなメッセージングが可能になった一方で、この傾向が社会の分断をさらに深める可能性も指摘できる。政治家には、多様な

層に訴えかけつつも社会全体の一体感を損なわないバランス感覚が求められる

また、AIは有権者が政治家の言動をより正確に判断する手段を提供する一方で、判断基準の透明性や分析結果の解釈には慎重さが求められる。図表4に示すように、AIによる政治分析には多くの利点がある一方で、いくつかの課題も存在する。特に、AIの判断基準の透明性確保、分析結果の慎重な解釈、倫理的配慮の重要性、そして技術と民主主義のバランスについては、現時点では人間の専門家による解釈が必要といえるだろう。